

北区役所新庁舎基本構想（案）説明会 質疑・意見概要

○日 時 平成 29 年 6 月 2 日（金） 午後 2 時～

○会 場 北地区コミュニティセンター

○参加人数 27 人

質疑・意見概要

① 整備位置を決める段階からプラットフォーム型サービス提供機能を意識していたので、豊栄駅南側の場所で整備を進めて欲しい。

→ 整備場所は、皆さんからいろいろとご意見をいただき、最終的に市長が決定したところである。区役所については、区全体で利用していただけるよう考えていきたい。

② 整備エリアの周りにウォーキングコースを整備する、また、多くの人から区役所に来てもらうということであれば、コンビニは必要ではないか。建築コストがかかるのであれば、それなりの賃料をとればいいし、民活も必要ではないか。

→ コンビニは、多くの人から区役所があればいいと考えていると思う。しかし、庁舎の中に入ると、当然、賃料も発生する。庁舎は、普通の建物より耐震性能が高いため、コストも高くなる。しかし、民間の建物は、耐震性についてはそこまでは求められていないので、逆に、コストが高くなる庁舎内に来てもらえるかということにもなる。庁舎の中には入れないが、今後、整備を進めていく中で、敷地利用の状況を踏まえ、コンビニの土地の貸付について検討したい。

③ いろいろな意見を聞いていくのもいいが、スケジュールに沿ってなるべく早く区役所を整備して欲しい。

→ スケジュールは整備位置検討の頃から変わりなく、平成 32 年度までの完成を目指している。今回の整備の特徴は、複合化、そして交流スペースの整備ということである。スケジュールはしっかり守っていくが、このスペースをどう使っていくかということも重要であり、皆さんの意見を聞きながら進めていきたい。

④ 合意点を見出して早く整備を進めて欲しい。ただ、整備位置を決める段階でこういう庁舎にしていくという構想もあったと思うが、当初の説明から、どの点が大きく変わったか教えて欲しい。当時は、文化会館の駐車場で十分という話もあったかと思うし、現在は公民館の複合化の話も出てきている。

→ 基本構想（案）ができるまでの間に、さまざまな段階を踏んで、区民の皆さんの意見を聞きながらここまで来た。大きく違う点は、整備位置の比較検討では、平成 27 年度に財産経営推進計画が作られたが、複合化は外して検討しようということで、いろいろな論点・視点で比較検討を進め、最終的には、自治協議会で 2ヶ所に絞られたところであり、市長の判断で位置が決定された。

整備位置の検討当時から、区の一体感の醸成に寄与する機能ということが言われており、このことは、この基本構想（案）においても変わらない。駐車場については、豊栄地区公民館との複合化や現庁舎新館への葛塚コミュニティセンターなどの移転に伴い、考えていかなければならないものである。

財産経営推進計画に基づきながら、複合化や不要となる土地などの処分を検討していくことが、新たに出てきた考え方である。

⑤ 新庁舎ができて、この地域は区役所までの距離が近くなるものでもないし、むしろ、我々にとって身近な出張所や連絡所が、区役所の整備が終わってからの手当てとなると、10年後の話ということにもなる。区役所の整備は推進して欲しいが、地域のことをもっと考えて欲しい。出張所をどうする、連絡所をどうするというようなことについて今すぐでなくてもいいが、この地域の住民に希望を与えて欲しい。これらのことを考慮しながら、区役所整備を進めて欲しい。

→ 整備位置検討時から、いろいろな地域に出向いて話を聞かせていただき、地域における連絡所の役割の大きさなどについて勉強させていただいた。老朽化に伴いこれからどうしていかなければならないかについては、しっかり考えて行きたい。新庁舎に対するアクセス性についてもしっかり考えていき、集まりやすい庁舎にしていきたい。出張所、連絡所についてもしっかり目を配って行きたい。

⑥ 北地区から新庁舎へのアクセス道路について、もう少し考えて欲しい。踏切もあり、また冬場になれば片側1車線などにもなる。

→ 線路を渡る負担感はあると思う。新庁舎整備後の動向もしっかり見て行きたい。中央環状道路も整備が進み使い勝手も良くなると思うが、少しでも良くなるよう考えていきたい。

⑦ 人が集まる複合化でないのだめだと思ふ。北区は広い地域で、魅力がないと利用しないと思ふし、簡単に行けるアクセスを考えて欲しい。

→ 行きたくなる、そこに行けば何かがあるという、ハードともにソフトも考えながら、そしてアクセス性なども含めて全体を考えて行きたい。

⑧ 松浜からのアクセスは芋黒線が一番近いが、豊栄駅ガード下を通ると信号の関係で車がつながることもある。新庁舎もできるのでその辺りも検討して欲しい。

→ 貴重なご意見として、信号の関係なので警察に話をしながら、ストレスなくアクセスできるよう話をしていきたい。

⑨ 北地区も並行で何か進めてもらえるといいと思うが、何かあるか。

→ 公共施設の建替、変化は今後もあると思ふし、区役所については、葛塚地域で、太田小学校の廃校といった変化もあるなかで、ワークショップにおいても検討してもらい、複合化ということにもなった。

北地区の検討の際には、住民の方にワークショップのメンバーになってもらい、また市の考え方も示しながら、検討を進めていくことになると思ふ。

出張所の状況についてはしっかり注視していきたい。

○日 時 平成29年6月3日(土) 午後7時～

○会 場 豊栄地区公民館

○参加人数 13人

質疑・意見概要

① なぜ駐車場が施設ごとに必要なのか。施設ごとに駐車場が必要だから葛塚コミュニティセンターの土地が必要だということではないのか。葛塚コミュニティセンターの現庁舎新館への移転ありきということではないのか。

→ 整備エリア内の駐車場全体で考えるべきものと思っているが、各施設の利用者の動線を考慮すると、わざわざ遠いところに車を止めて目的の施設に行くことは利用者の負担になるという意見ももらっている。必ずここに止めなければならないということではなく、今あるスペースを有効に使うことが重要である。

はじめに移転ありきという話については、葛塚地域のワークショップの中でも複合化などについて検討してもらい、また基本構想検討会議においても区役所の複合化について検討してもらっている。それらの検討結果を踏まえ、基本構想（案）に採用しているものである。

- ② プラットフォーム化するのであれば、葛塚コミュニティセンターの貸館機能を残した方が、よりプラットフォーム化できるのではないかと。現庁舎新館に賑わいを求めるのであれば、葛塚コミュニティセンターの移転ではなくもっと他に方法があるのではないかと。本館跡地については記載があいまいであり、構想（案）の中に平成 34 年度以降どうするのかということに記載して欲しかった。

→ 現庁舎新館は、葛塚コミュニティセンターと豊栄地区公民館の貸館機能の一部が移転することにより、駐車場が不足することがないように、必要なスペースを確保したい。本館を取り壊した後は、駐車場を整備し、不要な部分は売却等を進めていきたい。

- ③ 葛塚コミュニティセンターの現庁舎新館への移転は、コミュニティ協議会葛塚連合の全員に近い意見でもある。現在のコミュニティセンターが十分ではないので、できれば新館へ移転したいということコミュニティ協議会葛塚連合として市側へお願いをしたという経緯もあるので、今回、移転が示されたことはいいことだと思っている。

→ 葛塚中心部まちづくり構想が検討され、市側に提出されたところだが、基本構想検討会議においても、まちづくり構想などを参考にしながら検討をお願いしてきたところである。

- ④ 葛塚中心部まちづくり構想は、平成 25 年度に検討、計画し自治協議会が承認して新潟市に挙げが、今回、それをなかつたことにすると、本館跡地を駐車場にすると、それなら、はっきり本館跡地は駐車場しかない、他の使い方はないと書いて欲しい。産業振興課の意見がまったく入ってないのではないかと。産業振興課経由で計画をたて、自治協議会で提案し、市に出しているのにまったく考慮されていない。本館には、庁舎ができる前は学校があり、保育園があり、市場があり賑わいの中心であった。産業振興課の意見を取り入れる機会があったのか、新館の活用に必要な駐車場は確保すると書いてあるがそれ以外のことは書いていない、だとすれば考える余地があるのではと思い提案した。

→ 財産経営推進計画が平成 27 年に策定され、これが基本的な市の考え方である。できる限り無駄な公共施設は整理し、複合化、多機能化していくという基本方針もある。葛塚コミュニティセンター移転後の新館に必要な駐車場を整備し、それ以外の不要なところは売却や貸付を進めていくことになるが、本館解体後の跡地は駐車場にならざるを得ないと思っている。ただ、設計を進めなければ必要な面積はわからないので、基本構想（案）ではこのような表現になっている。

新庁舎整備の過程は、ずっと積み重ねられてきているものであり、整備位置の検討の場面でも、葛塚中心部まちづくり構想の結果については、皆さんと共有しながら進めてきたところである。北区役所内部でも当然共有している。葛塚市や葛塚コミュニティセンターの利用者などの利用状況なども考慮して、市有地についても有効活用していく、売却できるところは売却するということが有効活用でもあるので、その方向を考えながら検討していきたい。現時点で、どこまでをどうすると決めきれないところもある。今の指摘についても、念頭に置きながら大きな課題として検討していきたい。

- ⑤ 交流スペースについて、最近の流行のように書かれているが、例えば子どもふれあい広場だが、待機児童がゼロということで、ママ友が集まってということがこの豊栄地区ではあまりないのではないかなど。また、いろいろな機能を入れてとあるが、その反面、行政機能を分離しないとセキュリティ面で大変だと書かれていると、建物が完全に壁で仕切られているほうがいいのかなど、書かれていることが相反するように思う。

→ 子どもふれあい広場は、区役所への申請時に子どもが待っていると、公民館に来た時に一緒に過ごせるスペースとして考えている。新発田市はイクネスとして別に整備している。新発田市庁舎にはこのようなスペースはないし、他の区では子どもに特化したスペースはないが、東区では多目的スペースとして活用されている。

J Cからも意見書を頂いており、子どもがおもいきり遊べるスペースをとという意見もあったが、どう工夫し機能を持たせていくかはこれからの設計の段階かなと考えている。子どもたちは、土日が学校などが休みになる、親も日中働いているとなると、夜間や土日、子どもたちと一緒に過ごせるスペース、土日は使わない待合スペースと一体となって使えば広がるが、広すぎると財政的な制限もあり、現在、内部で調整中である。

- ⑥ J Cのアンケートの回答者は、このまちにどんなものがあつたら行くのかという素直な気持ちで回答している。その回答が2千枚以上集まった。その中に子どもたちが思いっきり遊べるスペースという回答があり、聞き取りも含めて、北区民が新発田市役所へ行く、東区役所へ行くということで、また横越にもわざわざ行っているということで、申請の間待っているという小さな規模ではなく、プラットフォーム型はいい話だと思うが、例えば図書館で本を借りたあとそのまま遊べるなど、面積はこれからということなので検討して欲しい。

→ 新庁舎の整備には創意と工夫が大事だと思っている。プラットフォーム型でいろいろな施設とつながる。文化会館にも大きなホワイエがあるが、いろいろな施設と連携し、さまざまなニーズに応えていく必要があると思っている。今後、図面ができていく中で、説明会を開催して、スペースの広さや使い方を説明していきたい。

交流スペースは今までの区役所にはなかった考え方であり、区役所は交流の拠点、一体感の醸成の拠点としての機能が必要という話もある。一方で財政的な問題もあるので、これらのことを考えていくのが今後の作業となる。

これからの子育て世代に対して、北区にはこういうものがあるとアピールしていく、これからどう実現していくか、運用していくか、やってみないと分からない点もあるが、これだけの声も頂いているので、施設連携の優位性なども活かしながら、図書館や文化会館と融合させることで、子育て世代に対して利用しやすい公共施設となるよう考えていきたい。

- ⑧ 次世代につながる庁舎ということで、環境負荷低減機能を大事にして欲しい。また、新発田のイクネスに見学に行き、子どもたちを遊ばせながら交流している姿を見ると、こういう機能も大切だなと感じた。市民にとって北区役所が親しみがある、使いやすい、市民にとっても交流の場となるような特性を持たせる意味からも、交流スペースの意義はあると思うので、1階の隅あたりにちょっとしたスペース設けるのではなく、北区役所そのものが、交流スペースで親同士がお茶を飲みながら楽しめる、夢のある話でもあり、全体の話の中で大変かもしれないがよろしく願いたい。

→ 未来につながる庁舎であり、しっかり検討していきたい。

これだけの公共施設を繋げてサービスを提供できる。来る子どもたちも乳児から小学生などさまざま、いろいろなニーズがあると思うので、勉強しながら設計に反映させていきたい。